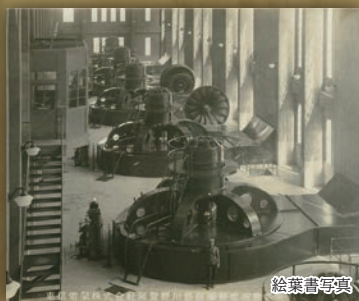


鹿瀬ダム



徳永次一氏所蔵

△大河を半分締め切る半川締切工法で建設された。



絵葉書写真、

△鹿瀬ダム内部の発電機と水車、外国製だった。



田辺修一郎氏所蔵

△陣工事を取り越し、大正13年に開通した岩越線(現・磐越西線)。

大正から昭和へ、鉄道が敷かれダム建設が始まった

特集 2

保存版

阿賀野川上流域で栄えた 近代産業の光と影の軌跡

近代産業の「光と影」を一望する

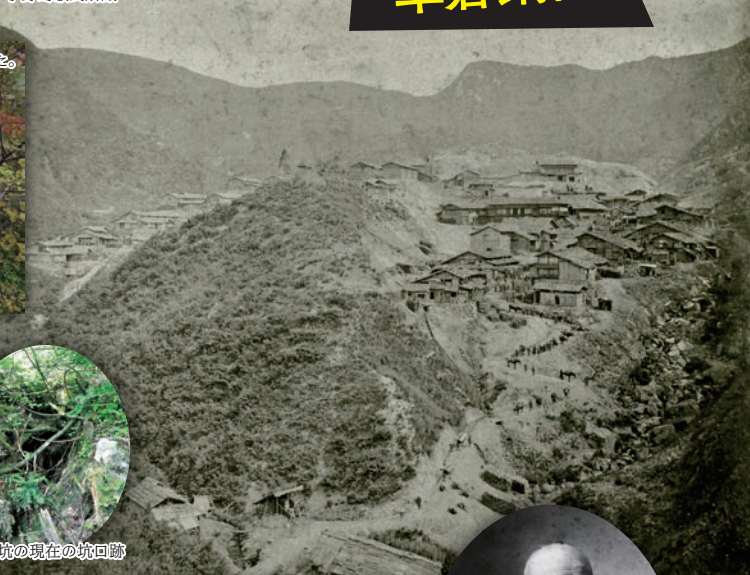
FM事業ではここ2〜3年ほど、阿賀野川上流域で栄えた近代産業にまつわる貴重な史料を大量に発掘し、イベントやパネル巡回展などを開催してきました。

特に昨年度は、草倉・足尾銅山を始め、持倉銅山や鹿瀬ダム、そして昭和電工(株)鹿瀬工場など、近代産業の関連スポットを網羅した多彩なイベントを相次ぎ開催するなど、これまでの総決算とも言える取組を展開したところです。

そこで、阿賀野川上流域の近代産業が持つ今後の可能性や意義を探るためにも、今までに収集した貴重な史料を活用して、その光と影を巡る歴史を皆さんとともに振り返ります。

草倉銅山

小野崎敏氏所蔵



鹿瀬支所職員が本山写真の撮影ポイントを発見した。



出典「写真集ふるさと百年五景」(中浦原・東浦原)(新潟日報事業社)



通洞坑の現在の坑口跡

古河財閥初の銅山で、足尾の不振期を支えた

小野崎敏氏所蔵



△角神製錬所。周囲の山林を枯らす煙害が発生した。

柏崎市立図書館所蔵



△角神の川港。阿賀野川の舟運で荒銅を出荷した。

△通洞坑の坑口。坑夫はここから各坑道へ移動した。

△草倉本山の光景。飯場、神社、人馬などてにぎわっていた。

足尾銅山

古河市兵衛氏

△7世兵衛(小野崎一徳写真)足尾銅山(小野崎敏氏蔵・新潟県)

日本近代化の光と影の象徴



△製錬所内の巨大施設群。草倉と比べられないほど大規模な鉱害を引き起こした。



△足尾で発展した鉱山町と大工場群。ここで近代日本の産業技術が花開いた。

持倉銅山



△持倉銅山の製錬所外観と内部の焙鉱炉。製錬の際に出る不純物のカラスでレンガをつくり、外壁に再利用した。

鹿瀬工場

田辺修一郎氏所蔵



△昭和4年の建設当初の鹿瀬工場。白い煙はカーバイド工場。



高度経済成長期の光と影

当初は石灰石を原料とした化学肥料が主力製品で、戦後には2千名以上もの従業員を抱える大工場となりました。

その後、日本が高度経済成長期に突入すると売上は低迷、鹿瀬工場は慢性的な赤字に陥ります。この難局を打開すべく、工場は有機化学の方へ主力製品を転換しました。

しかし、その製造過程で副生された有機水銀が阿賀野川へ流れ出て、後に四大公害の一つとなる新潟水俣病を引き起こしてしまいました。

鈴木貞孝氏所蔵



△原料の石灰石は阿賀野川沿岸から索道で運搬。

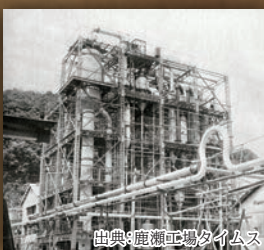


出典「阿賀の里・下」(東浦原郡誌編さん委員会)

△鹿瀬工場の朝の出勤風景。2〜3千名もの従業員がいた。



△現在の工場排水口。



出典「鹿瀬工場タイムス」

△有機化学製品の製造プラント。

近代日本の光と影の縮図とも言える阿賀野川流域の歴史を、今後も様々な形でお伝えしていきます。

阿賀野川
えとこた
プロジェクト

貴重な写真でたどる

阿賀野川上流域を巡る 近代産業の変遷

明治・大正・昭和〜近代日本がたどった光と影の縮図

昨年度のパネル作品が下記のとおり再展示されます。前回お見逃しになった方は、この機会にぜひご覧ください!

期間 ● 平成29年10月4日(水)〜31日(火)
会場 ● 環境と人間のふれあい館 1F ホール

※10/10(火)、10/16(月)、10/23(月)、10/30(月)は休館日

◀お問合せは、次ページのふれあい館お問合せ先へ 主催：新潟県立環境と人間のふれあい館／協力：一般社団法人あがのがわ環境学舎

